

穂肥と 病虫害防除で 収量アップ

令和5年 夷隅地域水稻生育情報 第2報

令和5年6月19日
夷隅農業事務所
改良普及課
TEL 0470-82-2213
FAX 0470-82-3975

生育概況

生育初期の草丈は平年よりも低い傾向がみられましたが、6月15日の調査では概ね平年並みでした。茎数は、5月19日調査と同様に、概ね平年並みでした。葉色は、平年よりも濃い傾向がみられました。

「ふさがね」は平年よりも2日遅く6月16日に、「コシヒカリ」は平年と同じ6月19日に幼穂形成期を迎えました。「粒すけ」の幼穂形成期は平年よりも2日遅く6月23日になる見込みです。

「でるた™」を使用することで、幼穂形成期、穂肥の施用時期、カメムシの防除時期の目安が分かります。使用方法は、チラシを同封したので、ご確認ください。

表1 夷隅地域での作柄調査ほの平年比生育状況（6月15日現在）

品種	調査場所	植付 時期	幼穂形成期 (平年値※)	測定値(平年比※)			
				葉齢	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	葉色 (SPAD)
ふさがね	大多喜町 下大多喜	4月 20日	6月16日 (6月14日)	11.0 (並)	56 (並)	35.3 (やや多)	48.2 (濃)
コシヒカリ	いすみ市 松丸	4月 19日	6月19日 (6月19日)	10.9 (やや進)	63 (並)	33.8 (並)	42.3 (濃)
粒すけ	いすみ市 島	4月 20日	6月23日 (6月21日)	12.0 (進)	54 (やや低)	27.7 (並)	47.4 (やや濃)

※ 粒すけは調査4年目のため、過去3年分のデータと比較した結果を示しました。

1 病虫害対策について

(1) いもち病

いもち病は、低日照・多湿で発生が多い病気です。出穂25～35日前以降に形成されたいもち病斑が穂いもちの主な伝染源となります。6月14日付け病虫害発生予報では予想発生量は「並」とされていますが、多発すると大幅な減収を招くため、今後の情報に注意してください。発生が予測される場合は、表2を参考に防除しましょう。

表2 いもち病に登録のある主な薬剤

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法	本剤の 使用回数
オリブライト 250G	250g/10a	出穂10日前まで ただし、収穫45日前まで	散布	1回
フジワンモン カット粒剤	3～4kg/10a	出穂30～10日前まで ただし、収穫30日前まで	湛水散布	2回以内
ルーチン粒剤	1kg/10a	収穫30日前まで	湛水散布	2回以内

(2) 斑点米カメムシ類

近年、カメムシの多発により、斑点米の被害が増えています。出穂期の一斉防除だけで防除しきれなかった場合は、**出穂後2週間程度の乳熟期頃に追加防除**することで、被害を減らせます。また、**畦畔除草は出穂期前後2週間は行わないようにしましょう**。除草することで、カメムシが畦畔からほ場内に移動し、斑点米の増加につながるためです。

表3を参考に防除しましょう。

表3 カメムシ類に登録のある主な薬剤

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
トレボン粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内
キラップフロアブル	1,000～2,000倍 (散布液量 60～200L/10a)	収穫14日前まで	散布	2回以内

2 穂肥の施用について

安定した収量・品質の確保のために、幼穂を観察して穂肥を施用しましょう。幼穂の確認の仕方は、カッターナイフ等で主茎の根本を縦に割り、図1のように幼穂長を測定します。幼穂長が1mm以上の幼穂の割合が80%以上(5分の4以上)となった時が幼穂形成期です。そして、幼穂長が10mmの時期が、穂肥の施用時期となります。

表4の生育目標値を参考に、施肥量や施肥時期を調整しましょう。穂肥の目安は品種・土質ごとに異なるため、表5から確認しましょう。

表4 穂肥時期、生育量の目安(50株/坪植えの場合)

品種	穂肥の施用時期	幼穂形成期の生育目標値		
		草丈	株当たり茎数	葉色※
ふさこがね	幼穂形成期から1週間後頃 (出穂期18日前頃)	60～65cm 以下	29～33本	5.0
コシヒカリ	幼穂形成期7日後から15日後 (出穂期18日前から10日前)	70cm 以下	28～36本	3.5～4.0
粒すけ	幼穂形成期から1週間後頃 (出穂期18日前頃)	65cm 以下	36～39本	5.0

※ カラースケールの値

表5 穂肥施用量の目安(10a当たり)

品種	壤土	粘土
ふさこがね	窒素3kg+加里3kg	窒素2～3kg+加里3kg
コシヒカリ		窒素2kg+加里3kg
粒すけ		

※ 施肥量の調節等でお困りの際は、農業事務所へお問合せください。

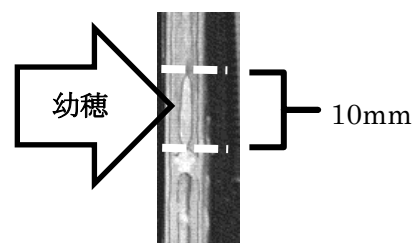


図1 幼穂の確認の仕方

農薬を使用する際はラベルをよく読み、適正に使用にしましょう。

できるだけ迅速に情報提供を行うため、郵送から電子メールまたはFAXへの切替えをおすすめします。切換え可能な方は、下記までご連絡ください。

連絡先 板倉、鈴木、太田黒、田中(知)

メール: t.itkr14@pref.chiba.lg.jp TEL: 0470-82-2213